

平成16年3月20日発行 創刊号

# 肉の三井NEWS

発行者 株式会社 三井 編集者 三井 猛 電話 03-5621-1129 FAX03-5621-1130

創業 昭和33年3月20日

## 創刊にあたって御挨拶

肉の三井ニュースの創刊に関しましてご挨拶を申し述べます。

お蔭様をもちまして、和牛一筋50年。高級和牛の三井と致しまして首都圏におきましては多くの最高の御客様に恵まれ多大なお引き立てを頂いております。ここに忠心から御礼申し上げます。常日頃のご厚情、心から感謝申し上げます次第です。有難うございます。

私どもは高級和牛に関しましては、信用を第一として、お客様のご要望を的確に把握し、ご要望どおりの商品をお届けするという当たり前のことをきちんと正確に実行し、最高の品質の商品をご希望通りにこれからもお届けする所存です。

また、私ども三井は、我々の生活水準をより向上させることが出来るという信念に基づいて、食の安全、安心、そして、御客様へ奉仕する企業姿勢を基盤とした活動を展開して参ります。

また、環境にやさしい品質の高い食生活の向上に貢献することも三井の使命です。その上に御客様のご商売の発展のお役に、更にお手伝いを深め一步一步着実な歩みを続けたいと願っております。

さて、このたび、さらなる皆様とのお付き合いを深めたく、誠に勝手ではございますが、【三井ニュース】を発行させていただきました。社内報に

近いものですが、より御客様の皆様からのご意見ご要望ご批判を頂戴して、少しでもこのパンフレットが切磋琢磨の研磨剤としての役割を担い、御客様のお仕事のお役に立つことを祈念いたしまして、創刊させていただきました。よろしく、よろしくご支援のほど伏してお願い申し上げます。

代表取締役会長 三井 正巳

## トピックス

BSEについて、日米の見解の違いについて  
現在国内産牛肉については全頭検査を実施して、安全よりも安心を中心になっております。安全を担保するには、危険部位を除去しさえすればよいのですが、その上の安心を追及すると全頭検査という事になっております。日本を除く各国は、OIE(世界獣疫事務局)に基準に基づいて対応しております。日本も上記基準でいいのではないかと考えております。詳しくは  
[http://www.oie.int/eng/en\\_index.htm](http://www.oie.int/eng/en_index.htm)

## スタッフ紹介

部長

戸塚 芳夫(55歳)

より良い商品を見分ける仕入販売責任者です。人柄は温厚ですが、仕事に対しては、厳しい頼もしい責任者です。三井の宝の一員です。宜しくご高配を賜りたくお願い申し上げます。

在社歴 21年

出身地 東京都墨田区  
趣味 ジャズ、映画（小津安治郎作品） 調理師、大型二輪  
（ハーレーに乗るのが夢）  
癖 ジャダレを言って人を笑わす



作業場風景

### 和牛の話（１）

牛の仲間は約 500 種類あり、系列にまとめましても約 250 の品種があります。世界中で飼われている数は、約 12 億から 15 億頭と言われています。牛の進化を考古学的にみると、約 7 百万年前の鮮新世に牛の共通の先祖がヒマラヤ山脈東部ラオスの北部付近の中国内に出現し、これが 2 百万年から 1 万年前までの更新世の間に、ユーラシア大陸全体に拡散して行きました。そして、現在これらを種として区別しますと *Bos taurus* と *Bos indicus* に大別されています。前者はヨーロッパ原牛から由来するといわれていますコブの無い牛であり、後者はアジア、アフリカ地域を主産地としているコブのある牛で、ともに染色体は 60 で、核型に少しの違いがありますが、交雑によって不妊のような障害が起こらないので、品種の中にはこれら両者の合成品種も数多く含まれています。現在、約 6 億頭は役用を主目的に飼われており、農耕が機械化された先進国では、肉用や乳用に特化した牛が飼われています。当然複数の目的を持つ兼用種も存在しています。

さて、それでは和牛はどこから来たかということ、沢山の説があり特定できません。一説には縄文時代にはすでに大陸から渡来したとされていますが、牛の肉が食用にされた事を示す痕跡すらありません。古墳時代の入りますと古事記や日本書紀に牛肉を食べた事を示唆する記録があり、古語拾遺（コゴシュウケン）には神代に大地主神（大国主尊）が田を作る日に、田畑で働く人に牛肉を食べさせたという記述があり、牛肉を食べたという記録は、4 世紀以後大陸から来た多くの渡来民が持ってきた食文化を示すものとされています。

### 相場

2 月よりオーストグラスを中心に大幅な相場下落をしていましたが、外貨高及び為替安のため、相場に底が出てきました。3 月中旬より前回ほど無いにしても相場が上昇局面に入る模様。国産牛についても、和牛と名のつくものは、引き続き引き合いが強く、高値安定。交雑牛については、以前ほど高騰が無く、使いやすい価格になる模様。